

4章 見守り支援事業の中で見えてきた平時から必要な仕組みや機能

1 連携・協働を機能させるための仕組みや条件

1) 世帯全体を捉える視点

通常の保健・福祉の支援制度では、子ども・障がい者・高齢者・生活困窮者といった対象や分野ごとに支援が行われており、対象にあてはまらなければ、支援からこぼれ落ちていく人も出てきます。支え合いセンターでは、分野を問わず「被災者」という大きな括りの中で、世帯全体の状況を総合的に把握、アセスメントを行い、それぞれの課題に応じて適切な支援機関に丁寧につないでいくコーディネートの役割を果たしてきました。

平時においても、特に課題が複合化・複雑化している場合には、世帯全体を俯瞰しながら、多機関による多角的なアセスメントを行い、支援を組み立てられるような仕組みが必要であると考えます。

2) 機関同士の相互理解

保健福祉の分野では常日頃から個別支援の中で多機関協働の連携会議を実施していますが、同一世帯でも機関によって支援対象となる世帯員が違っていること等によって、課題の捉え方、目標設定が異なる等、連携が難しいこともあります。

支え合いセンターから他機関につないでいく上では、多機関協働の「場」(p.16)で述べたように、個別の支援に関して多機関で検討や情報交換を行う会議を定期的に設けたり、日々の各支援機関との連絡調整、情報共有等を積み重ねていくことで、顔が見える関係性、無理が言える関係性が構築され、互いの役割や限界性を具体的に認識することができ、スムーズな連携につながったと考えます。

2 つながり続けるためのアウトリーチと支援機関同士のネットワークの強化

支え合いセンターではどの支援制度にも当てはまらない方、または課題が見えているものの、支援に入ることが難しい方に対して、つながり続けるアウトリーチを行いました。時間はかかりますが、つながり続けることによって、関係構築が徐々にでき、話が深められることで支援者側が世帯のニーズを把握できたり、支援の受け入れが進んでいくことを実感しました。

一方で、8050問題や経済的困窮のリスクがあり、将来的に生活上の困りごとが起きてくる可能性が高いと支援者が感じている世帯であっても、今すぐ支援に結び付くことが難しい世帯も多くあります。そのような世帯には、支援が必要となった場合、その状況を早期にキャッチし、早急に支援開始できるよう、介入が想定される支援機関同士で、事前に世

帯情報を共有しておく等、支援機関同士のネットワークを強化する必要があると考えます。

3 課題に応じた支援をオーダーメイドで組み合わせるための分野を超えた連携

支え合いセンターの支援の中で、「住まい」や「経済面」等、保健福祉分野内にとどまらない課題に対しては、建築士、弁護士、ファイナンシャルプランナーとの連携等を行いました。その世帯の課題に対応するには、分野を問わず必要な支援をオーダーメイドで組み合わせる必要があります。このように、支援の幅を広げていくためには、士業やボランティアなど新たな連携のネットワークを作っていく必要があると考えます。

4 潜在化しているニーズを平素からキャッチできる仕組み

見守り支援事業では、「半壊以上」のり災証明書が発行された真備地区全てのり災世帯を対象に、積極的なアウトリーチを行い、状況把握、ニーズキャッチをしました。しかし、平時において、全世帯への積極的なアウトリーチを行うことは困難です。そのため、身近な地域で住民が自然に気にかけてあげようとして、困っている方を見つけた時に相談してもらえると、早期に適切な支援につながるができると考えます。そのために、「ゆるやかな見守り」を地域全体に広げていくことが必要だと考えます。

5 個別支援で捉えた課題から必要な資源や支援機能創出につなげる仕組み

支え合いセンターの支援の中で、必要な制度や資源がないことから支援が立ち止まってしまいそうになった際に、新たな事業を作ってきました。これは個々の課題を場当たりに個として対応するのではなく、各支援者が捉えた個々の課題を集約することで一般化でき、それに対応するために制度を柔軟に適応して、事業を創出し、それぞれの役割を少し超えるような（のりしろ的な）連携の検討を行うことにつながると考えます。

6 社会的なつながりが持てるような働きかけ

被災後に新たな場所で住まいを再建し、地域とのつながりを再度作っていかねばならない方、見守り支援事業により顕在化してきた元々孤立がちであった方、8050 問題やひきこもりの課題を抱えている方などに対し、本人のニーズに応じて、人とのつながりが持てるような機会の創出、集いの場など活動の場や人とのつなぎを行ってきました。平時においても、フォーマル、インフォーマルを問わず、本人のニーズに合った社会参加できる場へのつなぎを検討していく必要があると考えます。